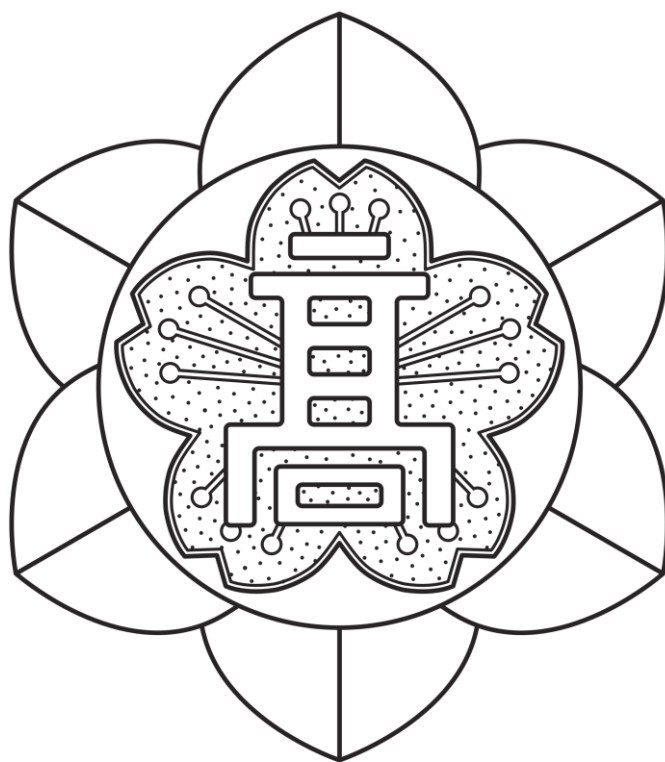


令和7年度
第3学年用シラバス



静岡県立清水東高等学校
定時制の課程

教科	科目	単位数	履修学年
国語	文学国語②	2	3年

使用教科書	副教材等
高等学校 標準文学国語（第一学習社）	なし

科目の目標 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。 （１）生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 （２）深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 （３）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と評価規準		評価方法
①知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	・テスト ・ワークシートの内容
②思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・テスト ・ワークシートの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
③主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	・取り組みの観察 ・ワークシートの内容 ・自己評価・相互評価

単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準 ①〔知識・技能〕 （１）言葉の特徴や使い方に関すること ア 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 イ 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにできる。 ウ 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 エ 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 （２）我が国の言語文化に関すること ア 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 イ 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 ②〔思考・判断・表現〕 A 書くこと （１）書くことに関すること
--

- ア 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。
- イ 読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。
- ウ 文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。
- エ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。

(2) 書くことに関する言語活動

- ア 自由に発想したり評論を参考にしたりして、小説や詩歌などを創作し、批評しあっている。
- イ 登場人物の心情や情景の描写を、文体や表現の技法等に注意して書き換え、その際に工夫したことなどを話し合ったり、文章にまとめたりしている。
- ウ 古典を題材として小説を書くなど、翻案作品を創作している。
- エ グループで同じ題材を書き継いで一つの作品をつくるなど、共同で作品制作に取り組んでいる。

B 読むこと

(1) 読むことに関すること

- ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。
- イ 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。
- ウ 他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。
- エ 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。
- オ 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。
- カ 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。
- キ 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。

(2) 読むことに関する言語活動

- ア 作品の内容や形式について、書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりしている。
- イ 作品の内容や形式に対する評価について、評論や解説を参考にしながら、論述したり討論したりしている。
- ウ 小説を、脚本や絵本などの他の形式の作品に書き換えている。
- エ 演劇や映画の作品と基になった作品とを比較して、批評文や紹介文などをまとめている。
- オ テーマを立てて詩文を集め、アンソロジーを作成して発表し合い、互いに批評している。
- カ 作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり短い論文などにまとめたりしている。

学習計画							
月	単元名	使用教科書項目	評価の観点				
			①	②			③
				A	B	活動	
4	現代の小説（三）	旅する本	(1) イ	ア	ア	B (2) ア	○
		富嶽百景	(1) ウ	ア	イ	B (2) ア	○
	近代の小説（二）	山月記	(1) ウ・エ	イ	オ	A (2) ウ B (2) ウ	○

6		清兵衛と瓢箪	(1) イ (2) イ	イ	カ	B (2) カ	○
7	近代の詩	こころ	(2) ア		エ	B (2) カ	○
		汚れちまった悲しみに……	(1) エ		ウ	B (2) オ	○
		永訣の朝	(1) ウ		ウ	B (2) オ	○
9	現代の小説 (四)	卒業	(1) エ	ア	オ	B (2) イ	○
10		ひよこの目	(1) ウ	イ	カ	B (2) イ	○
11	戦争と文学 (二)	血であがなったもの	(1) イ (2) イ	ア	キ	B (2) カ	○
12		夏の花	(1) エ (2) イ	ア	オ	B (2) エ	○
1	創作をする	物語を創造する〈物語を発現する力〉	(1) ア	ウ		A (2) イ・エ	○
		テーマを決めて短歌・俳句を作る	(1) エ	エ		A (2) ア	○
2		古典を基にして物語を作る	(2) ア	エ		A (2) ウ	○

教科	科目	単位数	履修学年
国語	国語表現	3	3年3修、4年

使用教科書	副教材等
国語表現（大修館書店）	なし

科目の目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し、効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。 （１） 実社会に必要な国語の知識や技術を身に付けるようにする。 （２） 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 （３） 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技術を身に付けるようにしている。	・テスト ・ワークシートの内容
② 思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・テスト ・ワークシートの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	・取り組みの観察 ・ワークシートの内容 ・自己評価・相互評価

単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準
①[知識・技能] （１）言葉の特徴や使い方に関すること ア 言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあること理解している。 イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。 ウ 自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 エ 実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。 オ 省略や反復などの表現の技法について理解を深め使っている。 （２）我が国の言語文化に関すること ア 自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 ②[思考・判断・表現] A 話すこと・聞くこと （１）話すこと・聞くことに関すること

- ア 目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。
- イ 自分の主張の合理性が伝わるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、相手の反論を想定して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。
- ウ 自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫している。
- エ 相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。
- オ 論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
- カ 視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
- キ 互いの主張や論拠を吟味したり、話合いの進行や展開を助けたりするために発言を工夫するなど、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの仕方や結論の出し方を工夫している。

(2) 話すこと・聞くことに関する言語活動

- ア 聴衆に対してスピーチをしたり、面接の場で自分のことを伝えたり、それらを聞いて批評したりしている。
- イ 他者に連絡したり、紹介や依頼などをするために話をしたり、それらを聞いて批評したりしている。
- ウ 異なる世代の人や初対面の人にインタビューをしたり、報道や記録の映像などを見たり聞いたりしたことをまとめて、発表している。
- エ 話合いの目的に応じて結論を得たり、多様な考えを引き出したりするための議論や討論を行い、その記録を基に話合いの仕方や結論の出し方について批評している。
- オ 設定した題材について調べたことを、図表や画像なども用いながら発表資料にまとめ、聴衆に対して説明している。

B 書くこと

(1) 書くことに関すること

- ア 目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組合せなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。
- イ 読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、反論などを想定して論理の展開を考えるなど、文章の構成や展開を工夫している。
- ウ 読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫している。
- エ 自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方を工夫している。
- オ 自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫している。
- カ 読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかななどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。

(2) 書くことに関する言語活動

- ア 社会的な話題や自己の将来などを題材に、自分の思いや考えについて、文章の種類を選んで書いている。
- イ 文章と図表や画像などを関係付けながら、企画書や報告書などを作成している。
- ウ 説明書や報告書の内容を、目的や読み手に応じて再構成し、広報資料などの別の形式に書き換えている。
- エ 紹介、連絡、依頼などの実務的な手紙や電子メールを書いている。
- オ 設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理したり話し合ったりして、自分や集団の意見を提案書などにまとめている。
- カ 異なる世代の人や初対面の人にインタビューをするなどして聞いたことを、報告書などにまとめている。

学習計画							
月	単元名	使用教科書項目	評価の観点				③
			①	②			
				A (1)	B (1)	活動	
4	【第2部】 表現を楽しむ	1 言葉で遊ぶ	(1) ア・ウ・オ		ア		○
5	【第1部】 表気力を培う 1 言葉と出会う	レッスン1 言葉と表記	(1) ア・ウ		オ		○
		レッスン2 整った文を書く	(1) イ		オ		○
		レッスン3 相手に応じた言葉遣い	(1) イ・ウ		オ		○
		レッスン4 わかりやすい文を書く	(1) イ		オ・カ		○
		レッスン5 文のつなぎ方 【表現への扉】 使える言葉を増やそう 敬語は言葉の身だしなみ 論理的な表現とは？	(1) ウ		カ		○
6	2 伝える、伝え合う	レッスン1 自己紹介ゲーム	(1) イ	ア・エ			○
7	【第2部】 表現を楽しむ	2 無人島で生き残れ		ウ・オ・キ			○
	【第1部】 表現力を培う 4 自己PRと面接	レッスン1 自分を見つめて	(1) ア	ア			○
		レッスン2 効果的な自己PR		ア・ウ			○
		レッスン3 将来の自分を考えよう			ア・エ		○
		レッスン4 志望理由を書こう			ア・エ		○
		レッスン5 自己推薦書や学修計画書を書く	(1) イ		ア・エ	B (2) ア	○
		レッスン6 面接にチャレンジ	(1) イ	ア・エ		A (2) ア	○
9	5 メディアを駆使する	レッスン1 通信文を書き分ける	(1) イ		オ	B (2) エ	○
		レッスン2 電話を使いこなす	(1) イ	エ		A (2) イ	○
		レッスン3 電子メールを活用しよう	(1) イ			B (2) エ	○
		レッスン6 メディアと情報 【表現の扉】 メディアって何？ すべては編集されている	(1) エ	オ		A (2) オ B (2) オ	○
10	6 会話・議論・発表	レッスン1 相手や場面に応じた会話	(1) イ	エ			○

11		レッスン3 スピーチをしよう	(1) イ	ア		A (2) ア	○
	【第2部】 表現を楽しむ	11 演説合戦にチャレンジ		イ・オ		A (2) エ	○
	【第1部】 表現力を培う 3 小論文・レポート入門	レッスン1 小論文とは何か			ア・イ		○
		レッスン3 文章を読み取って書く 【表現の扉】 ロボット社会の本質 コインは円形か？			イ・ウ		○
		レッスン5 発想を広げて書く			ア・イ		○
	レッスン6 レポートを書く			ア・オ	B (2) イ	○	
12	読書のひろば	ビブリオバトルをしよう	(2) ア	ウ・エ・オ			○
1	【第2部】 表現を楽しむ	3 日常生活の正しい過ごし方	(1) イ	ア・オ			○
		5 「わが町自慢」のパンフレット作り	(1) オ		ア・ウ	B (2) ウ	○
		6 働く人にインタビュー		カ	オ	A (2) ウ B (2) カ	○
2		7 たほいやゲームをしよう	(1) ア・ウ		エ		○
		8 みんなで作ろう国語辞典	(1) ア・ウ		エ		○
		9 「私の虫類図譜」を作ろう			ウ・オ		○
		10 エッセイを書こう			ウ・オ		○
		11 こちら悩みごと相談所			ア・ウ		○
		12 開廷！ 模擬裁判		イ・エ・オ			○

教科	科目	単位数	履修学年
国語	論理国語	3	3年3修、4年

使用教科書	副教材等
新編論理国語（東京書籍）	なし

科目の目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。 （１）実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 （２）論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 （３）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と評価規準		評価方法
①知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。	・テスト ・ワークシートの内容
②思考・判断・表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・テスト ・ワークシートの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
③主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	・取り組みの観察 ・ワークシートの内容 ・自己評価・相互評価

単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準
①〔知識・技能〕 （１）言葉の特徴や使い方に関すること ア 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 イ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにできる。 ウ 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。 エ 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 （２）文章に含まれている情報の扱い方に関すること ア 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 イ 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深めている。 ウ 推論の仕方について理解を深めている。 （３）我が国の言語文化に関すること ア 新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解している。 ②〔思考・判断・表現〕

A 書くこと

(1) 書くことに関すること

- ア 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。
- イ 情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。
- ウ 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫している。
- エ 多面定・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。
- オ 個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫している。
- カ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。

(2) 書くことに関する言語活動

- ア 特定の資料について、様々な観点から概要をまとめている。
- イ 設定した題材について、分析した内容を報告文などにまとめたり、仮説を立てて考察した内容を意見文などにまとめたりしている。
- ウ 社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を参考にして、自分の考えを短い論文にまとめ、批評し合っている。
- エ 設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理して、様々な観点から自分の意見や考えを論述している。

B 読むこと

(1) 読むことに関すること

- ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。
- イ 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。
- ウ 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。
- エ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。
- オ 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。
- カ 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。
- キ 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。

(2) 読むことに関する言語活動

- ア 論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、批評したり討論したりしている。
- イ 社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を読み、それらの内容を基に、自分の考えを論述したり討論したりしている。
- ウ 学術的な学習の基礎に関する事柄について書かれた短い論文を読み、自分の考えを論述したり発表したりしている。
- エ 同じ事柄について異なる論点をもつ複数の文章を読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりしている。
- オ 関心をもった事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり報告書や短い論文などにまとめたりしている。

月	単元名	使用教科書項目	評価の観点				
			①	②			③
				A (1)	B (1)	活動	
4	広がる風景	対話とは何か	(1) ア・イ・ウ		ア・エ	B (2) イ	○

5		世界をつくり替えるために	(1) ア・イ・ウ		ア・ウ	B (2) ウ	○
		■論理の力を鍛えよう	(2) ア		エ		○
		【論理の力】論理とは何か	(2) ア・イ・ウ		ウ・エ		○
	考える手がかり	少女たちの「ひろしま」	(1) ア・イ・ウ		イ・エ・カ		○
		【論理の力】要約する力	(2) ア・イ		ア・エ		○
		「ふしぎ」ということ	(1) ア・イ・ウ		ア・カ		○
		言葉の扉①……慣用句の意味	(1) イ		ア		○
		【論理の力】つなげる力	(1) ウ (2) ア		ア・エ		○
		資料を整理し、テーマを吟味しよう	(2) ア・イ	ア・イ・エ		A (2) ア	○
6	人間と知性	学ぶことと人間の知恵	(1) ア・イ・ウ		ア・オ	B (2) エ	○
		ラップトップを抱えた「石器人」	(1) ア・イ・ウ		ア・オ・キ	B (2) エ	○
		■文章を読み比べるために	(2) ウ		キ	B (2) エ	○
		【論理の力】論証する力	(2) ア・ウ		ウ・カ		○
	現実の中で	思考の肺活量	(1) ア・イ・ウ		ア・エ		○
		安心について	(1) ア・イ・ウ		ア・ウ・エ	B (2) ア	○
		考える楽しみ①……言葉にすると き、しないとき	(1) ア		ア		○
		【論理の力】質問する力	(2) ア・ウ		エ・カ		○
		仮説を立てて検証しよう	(1) エ (2) ア・ウ (3) ア	ア・エ・オ		A (2) イ	○
7	ものの見方	弱肉強食は自然の摂理か	(1) ア・イ・ウ		イ・エ	B (2) ウ	○
		複数の「わたし」	(1) ア・イ・ウ		ア・ウ		○
		ブックガイド①……学びの窓をひら いて	(3) ア		キ		○
9	働くよろこび	はじめに「言葉」がある	(1) ア・イ・ウ		ア・カ	B (2) イ	○
		楽に働くこと、楽しく働くこと	(1) ア・イ・ウ		イ・オ	B (2) エ	○
		情景のなかの労働	(1) ア・イ・ウ		イ・オ		○
		鉄、千年のいのち	(1) ア・イ・ウ		イ・オ		○
		言葉の扉②……知っておきたいカタ カナ語	(1) イ		ア		○
10	時代をひらく	最初のペンギン	(1) ア・イ・ウ		ア・エ・カ		○

11		豊かさと生物多様性	(1) ア・イ・ウ		ア・ウ・キ		○	
		考える楽しみ②……「真の価値」を求めて	(1) ア		ア		○	
	新しい視点から	物語の外から	(1) ア・イ・ウ		ア・カ		○	
		カフェの開店準備	(1) ア・イ・ウ		ア・エ	B (2) イ	○	
		言葉の扉③……紛らわしい漢字	(1) イ		イ		○	
		短い論文を書いて読み合おう	(1) エ (2) ア	ア・ウ・カ		A (2) ウ	○	
	科学と人間	鏡としてのアンドロイド	(1) ア・イ・ウ		ア・ウ・カ	B (2) ウ	○	
		ロボットが隣人になるとき	(1) ア・イ・ウ		ア・ウ・カ	B (2) ウ	○	
		言葉の扉……的確に表現するために	(1) ウ		ア		○	
	12	豊かな認識	言葉は「ものの名前」ではない	(1) ア・イ・ウ		ア・ウ・カ	B (2) ウ	○
			科学的「発見」とは	(1) ア・イ・ウ		イ・カ		○
			◆図表の読み取り方	(2) イ	ア			○
			資料を活用して論述しよう	(1) エ (2) ア・イ	ア・イ・オ		A (2) エ	○
	1	知のゆくえ	知識における作者性と構造的性	(1) ア・イ・ウ		ア・ウ・カ	B (2) ウ	○
			もう一つの知性	(1) ア・イ・ウ		ア・ウ・カ	B (2) イ	○
			ブックガイド②……現代を生きるために	(3) ア		キ		○
2		明日をみつめて	ホンモノのお金の作り方	(1) ア・イ・ウ		ア・エ・オ	B (2) オ	○
			未来のありか	(1) ア・イ・ウ		ア・エ・キ		○
			考える楽しみ③……困難な時代に	(1) ア		ア		○
			やさしい日本語	(1) ア・ウ (2) イ		ア・エ	B (2) ア	○

教科	科目	単位数	履修学年
地理歴史	地理総合	2	2年3修、3年4修

使用教科書	副教材等
高校生の地理総合（帝国書院）	新詳高等地図（帝国書院）

科目の目標 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 （２）地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 （３）地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	・地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	・テスト ・プリント・ノート ・発表の内容 ・図表の読み取り
② 思考・判断・表現	・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を持ち、考察、構想したことを効果的に説明して議論できる。	・テスト ・プリント・ノート ・発表の内容 ・図表の読み取り
③ 主体的に学習に取り組む態度	・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を持ち、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについて自覚している。	・授業への取り組み ・プリント・ノート ・授業内容に取り組む姿勢 ・発表の内容

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	第1部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界	第1章 地図や地理情報システムと現代世界	- 地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取る技能や、地図や地理情報システム利用する技能を身につけている。 - 各種の地図にはどのような特徴があるのかや、地図や地理情報システムはどのように利用できるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
5						
6		第2章 結びつきを深める現代世界	- 世界を構成する国家の領域の定め方、地図を通して世界の国々の結びつき方、交通・通信・人の移動の特徴を理解している。 - 国家の領域はどのように定められており、どのような領土問題があるのかや、世界の国々はどのように結びついており、どのような交通、通信、人の移動の特徴があるのかについて、地図を通して多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
7						
9	第2部 国際理解と国際協力	第1章 生活文化の多様性と国際理解	- 世界の生活文化の多様性の背景となるものや、世界の生活文化の相互関係を見いだすための、地理的見方・考え方を身につけている。 - 地形や気候、産業とその発展、歴史、人の移動、他地域との結びつきに着目しながら、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
10						
11		第2章 地球的課題と国際協力	- 地球的課題が生じている場所や要因、課題同士が相互に関係しあっていることを理解している。 - 地球的課題がどこで、どのように生じているのかや、解決のためにどのような取り組みがなされているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
12	第3部 持続可能な地域づくりと私たち	第1章 自然環境と防災	- 自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活の中にみられる防災・減災への取り組みを理解している。 - どのような自然災害がどのような場所で生じるのかや、日本の自然災害にはどのような特徴があるのか、どのような防災・減災への取り組みがなされているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
1						
2		第2章 生活圏の調査と地域の展望	- 生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたについての技能を身につけている。 - 事前調査の結果からどのような仮説が立てられるのかや、現地調査の結果をどのように分析・整理するのか、他の事例との比較からどのようなことがいえるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○

教科	科目	単位数	履修学年
地理歴史	歴史総合演習	2	2年3修、3年、4年

使用教科書	副教材等
歴史総合（実教出版）	なし

科目の目標
基礎的・発展的な演習を通して、「歴史総合」で目標・内容に示された資質・能力を育成する。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	・テスト ・プリント・ノート ・発表の内容 ・図表の読み取り
② 思考・判断・表現	・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を持ち、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	・テスト ・プリント・ノート ・発表の内容 ・図表の読み取り
③ 主体的に学習に取り組む態度	・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を持ち、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚することができる。	・授業への取り組み ・プリント・ノート ・授業内容に取り組む姿勢 ・発表の内容

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	第1編 近代化と私たち	第1章 近代化への胎動	・資料から、情報を読み取ったりまとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより、興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、追求したいことなどを主体的に見いだそうとしている。	○	○	○
5		第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	・よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。	○	○	○
6		第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成	・19世紀後半の欧米諸国の動向が日本に与えた影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、19世紀後半の日本における経済活動の特徴、日本と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
7 9		第4章 帝国主義の時代	・戦争によって人々の気持ちはどのように変化するか、国民意識を高揚させるため為政者は国際関係や戦争をどのように利用するのかという問題を追究し、学習上の課題を解決しようとしている。	○	○	○
10	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	・資料から、情報を読み取ったりまとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより、興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、追求したいことなどを主体的に見いだそうとしている。	○	○	○
11		第6章 経済危機と第二次世界大戦	・第二次世界大戦に着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
12	第3編 グローバル化と私たち	第7章 冷戦と脱植民地化	・冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
1		第8章 多極化する世界	・冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
2		第9章 グローバル化と現代世界	・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○	○	○

教科	科目	単位数	履修学年
公民	政治経済	2	3年3修、4年

使用教科書	副教材等
最新政治・経済（実教出版）	なし

科目の目標 社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 （２）国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。 （３）よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	・社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解しているとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	・テスト ・プリントの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
② 思考・判断・表現	・国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明できる。 ・身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を身に付けている。	・テスト ・プリントの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
③ 主体的に学習に取り組む態度	・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとし、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めている。	・授業への取り組み ・プリントの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み ・自己評価

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	第1部 第1編 現代日本の政治	1章 現代国家と民主政治	・民主政治の発展過程や基本原理について基本的な知識が身につけている。 ・社会契約説や「法の支配」など民主主義の基本原理の意義について考察している。	○	○	
5		2章 日本国憲法と基本的人権	・日本国憲法が規定する基本的人権の内容を理解するとともに、実社会との関わりについて理解している。 ・大日本帝国憲法と日本国憲法の共通点や相違点について比較しながら多面的・多角的に考察している。 ・日本の政治機構に関する基本原則について理解している。 ・日本における立法・行政・司法の動向からその課題を多面的・多角的に考察している。	○	○	○
6		3章 日本の政治制度と政治参加	・政党政治や選挙制度、政治参加などについて基本的な知識を身につけている。 ・選挙制度や一票の格差、投票率の低下など政治参加の課題について、多面的・多角的に考察し、あるべき政治参加について自分の考えを表現している。	○		○
7	第2編 現代日本の経済	1章 現代の経済社会	・資本主義経済の理論と特徴についての基本的な知識を身につけている。 ・社会の変容に伴う資本主義経済の変容について多面的・多角的に考察し、基本的な動向について適切に表現している。 ・市場メカニズムがもつ効率的な資源配分の仕組みや、金融、財政の基本的な役割について理解している。 ・日本の金融や財政の課題について多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	○	○	○
9		2章 現代の日本経済と福祉の向上	・戦後日本経済の発展過程についての基本的な知識を身につけ、変化がどのような背景から生まれたか理解している。 ・日本経済が抱える様々な課題について、その現状や背景、望ましい解決策の方向性などについて十分な知識を身につけている。 ・日本経済が抱える様々な課題について多面的・多角的に考察している。		○	○
10	第3編 現代日本における諸課題の探求	1 持続可能な地域社会のあり方を考える	・現代の日本社会が抱える諸課題について多面的・多角的に考察し、課題解決の方法について立場の違いを踏まえながら公正に判断し、適切に表現している。	○	○	○
11		2 地域における防災を考える				
		3 財政健全化を考える				
		4 起業を考える				
		5 持続可能な農業を考える				
		6 ワーク・ライフ・バランスの実現を考える				
		7 持続可能な福祉社会の実現を考える				

12	第2部 第1編 現代の国際政治	1章 国際政治の動向と課題	・国際機構や国際法が構築された経緯を理解し、その仕組みや課題についての知識を習得している。 ・国際社会における様々な課題について多面的・多角的に考察している。	○		○
	1 第2編 現代の国際経済	1章 国際経済理論	・貿易や国際収支の仕組みについて基本的な知識を身につけ、赤字や黒字の意味するところを理解している。 ・グローバル化のメリットと課題・問題点について整理し、適切に表現している。		○	○
		2章 国際経済の動向と課題	・対立構造の変容から、国際社会の力学の変化を考えることができる。 ・大国の動向や、国家対国家の枠組みに収まらない対立構造について考えることができる。	○	○	
	2 第3編 国際社会における諸課題の探求	SDGsの実現に向けて 1 難民問題を考える 2 外国人労働者との共生を考える 3 自動運転技術を考える 4 地球環境問題、資源エネルギー問題を考える 5 国際経済格差の是正と国際協力を考える 6 持続可能な平和のあり方を考える	・現代の国際社会が抱える諸課題について多面的・多角的に考察し、課題解決の方法について立場の違いを踏まえながら公正に判断し、適切に表現している。	○	○	○

教科	科目	単位数	履修学年
数学	数学A	3	3年3修、4年

使用教科書	副教材等
新 高校の数学A（数研出版）	なし

科目の目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などについて基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	・場合の数と確率、図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	・テスト ・プリントの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
② 思考・判断・表現	・不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。	・テスト ・プリントの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
③ 主体的に学習に取り組む態度	・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。	・授業への取り組み ・プリントの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み ・自己評価

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4 5	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	1. 集合 2. 集合の要素の個数 3. 和の法則と積の法則 4. 順列 5. 組合せ	集合の要素の個数に関する基本的な関係について理解している。	○		
			和の法則や積の法則について、具体例を用いて理解し、場合の数を効率よく求めることができる。	○		
			順列や組合せの意味を理解し、公式を用いて基本的な順列の総数を求めることができる。	○		
			順列や組合せの考え方をいろいろな場面に利用して、条件のついた順列や組合せの総数を求めることができる。		○	
			重複順列や円順列の意味を理解し、総数を求めることができる。	○		
			事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察している。		○	
6 7	第2節 確率	1. 事象と確率 2. 確率の計算 3. 独立な試行と確率 4. 条件つき確率 5. 期待値	場合の数をもとに、基本的な確率を求めることができる。	○		
			確率の加法定理や余事象を利用して確率を求めることができる。	○		
			独立な試行の意味を理解し、簡単な場合について独立な試行の確立を求めることができる。	○		
			反復試行について理解し、簡単な場合について反復試行の確立を求めることができる。	○		
			条件つき確率の意味を理解し、簡単な場合について条件つき確率を求めることができる。	○		
			確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察している。		○	
9 10 11	第2章 図形の性質 第1節 平面図形	1. 図形の基本 2. 角の二等分線と線分の比 3. 三角形の外心、内心、重心 4. 円周角の定理 5. 円に内接する四角形 6. 円の接線 7. 方べきの定理 8. 2つの円 9. 作図	中学校で学んだ平行線と角の関係、三角形の角の性質、三角形の相似条件を確認し、これらを利用して線分の長さや角の大きさを求めることができる。	○		
			三角形の基本的な性質について理解している。	○		
			角の二等分線と比の定理について理解している。	○		
			三角形の外心・内心・重心の関係に着目し、図形の性質について考察している。		○	
			円周角の定理、円に内接する四角形の性質を理解し、それらを利用して角の大きさを求めることができる。	○		
			円の接線の性質について理解し、それらを利用して、接線の長さや、角の大きさを求めることができる。	○		
			方べきの定理を理解し、それらを利用して辺の長さを求めることができる。	○		
			2つの円の位置関係と、2つの円に共通する接線の数について考察している。		○	
			垂直二等分線、垂線、角の二等分線の作図方法を理解し、その作図ができる。	○		
			図形の性質を利用した平行線作図や内分点の作図方法を理解し、作図の有用性を認識している。		○	
						○

12	第2節 空間図形	1. 空間の直線, 平面 2. 正多面体 3. 立体の切断	2直線、2平面、直線と平面の位置関係を理解している。	○		
			多面体の頂点の数、辺の数、面の数との間に成り立つ関係を、オイラーの多面体定理として据えることができる。	○		
			空間における図形の位置関係を、平面上の図形の位置関係と関連付けて考えようとしている。		○	
			図形の構成要素間の関係やすでに学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。		○	
			図形の性質について、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けている。			○
1	第3章 数学と人間の活動	1. 約数と倍数 2. ユークリッドの互除法 3. 2進法 4. 点の位置と表し方 5. 数学とゲーム・パズル	約数、倍数、素数を求めたり、素因数分解をしたりすることができる。	○		
			最大公約数や最小公倍数を求めることができる。	○		
			2つの整数と、それらの最大公約数、最小公倍数との間に成り立つ関係について考察することができる。		○	
			ユークリッドの互除法を用いて、2つの整数の最大公約数を求めることができる。	○		
			2進法や10進法について、その仕組みを理解している。	○		
			身の回りで使われている10進法や2進法などに興味を持ち、2進法についてその仕組みを調べようとしている。		○	
			平面や空間において点の位置を表す座標の考え方と人間の活動との関わりについて理解している。	○		
			数理的なゲームやパズルを通して、数学と文化の関わりについての理解を深めている。	○		
			パズルやゲームなどに数学的な要素を見だし、目的に応じて考察することができる。		○	
			数学と人間の活動について、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けている。			○
2						

教科	科目	単位数	履修学年
理科	科学と人間生活②	2	2年3修、3年、4年

使用教科書	副教材等
科学と人間生活（数研出版）	なし

科目の目標
自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについて理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 （２）観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 （３）自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	・自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについて理解を深めている。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	・テスト ・プリントの内容 ・課題への取り組み
② 思考・判断・表現	・観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を身に付けている。	・テスト ・プリント、レポートの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
③ 主体的に学習に取り組む態度	・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとしている。 ・科学に対する興味・関心を高めようとしている。	・取り組みの観察 ・プリント、レポートの内容 ・発表の内容 ・自己評価、相互評価

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの 評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	科学技術の発展	序編 科学技術の発展 人間生活の歴史	科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解している。	○		
			科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現することができる。		○	

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの 評価規準	評価の観点		
				①	②	③
5	衣料と食品	第2章 衣料と食品 ①衣料と繊維 ②天然繊維 ③化学繊維（1） ④化学繊維（2） ⑤食品と栄養素 ⑥炭水化物 ⑦タンパク質 ⑧資質とその他の栄養素	身近な衣料材料の性質や用途、食品中の主な成分の性質について、日常生活と関連付けて理解している。	○	○	
6				○	○	○
7	ヒトの生命現象	第2編 生命の科学 第1章 ヒトの生命現象 ①遺伝情報とDNA ②生命活動を支えるタンパク質 ③血糖濃度とホルモン ④血糖濃度の調節と健康 ⑤免疫とからだの防御 ⑥免疫と健康 ⑦眼の構造とはらたき ⑧光の情報と生命活動	ヒトの生命現象を人間生活と関連付けて理解している。	○		
9				○	○	○
10				○	○	○
				○	○	
11	熱の性質とその利用	第2章 熱の性質とその利用 ①温度と熱運動 ②熱容量・比熱 ③熱の伝わり方 ④仕事や電流と熱の発生 ⑤エネルギーの移り変わり ⑥熱エネルギーの利用 ⑦エネルギー資源の利用	熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について、日常生活と関連付けて理解している。	○	○	
12				○	○	○
1	太陽と地球	第4編 宇宙や地球の科学 第1章 太陽と地球 ①日本の四季と気象災害（1） ②日本の四季と気象災害（2） ③大気の大循環 ④地球を出入りするエネルギー ⑤太陽の構造と太陽放射 ⑥天体の運動 ⑦天体の運動と海洋	太陽などの身近に見られる天体の運動や太陽の放射エネルギーについて、人間生活と関連付けて理解している。	○	○	
				○	○	○
				○	○	○
2	これからの科学と人間生活	終編 これからの科学と人間生活 課題研究の進め方 課題研究	これからの科学と人間生活との関わり方について認識を深めることができる。	○		
			これからの科学と人間生活との関わり方について科学的に考察し表現することができる。		○	

教科	科目	単位数	履修学年
理科	化学基礎	2	2年3修、3年、4年

使用教科書	副教材等
新編化学基礎（東京書籍）	なし

科目の目標 物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 （２）観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 （３）物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
--

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	・テスト ・プリントの内容 ・課題への取り組み
② 思考・判断・表現	・観察、実験などを行い、科学的に探究する力が身に付いている。	・テスト ・プリント、レポートの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
③ 主体的に学習に取り組む態度	・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度が身に付いている。	・取り組みの観察 ・プリント、レポートの内容 ・発表の内容 ・自己評価、相互評価

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの 評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	化学の特徴	1 編 化学と人間生活 1 章 化学とは何か	日常生活や社会を支える身近な物質の性質を調べる活動を通して、物質を対象とする科学である化学の特徴について理解している。	○		
5	物質の分離と精製	2 章 物質の成分 1 節 物質の成分	物質の分離や精製の実験を行い、実験における基本操作と物質を探究する方法が身についている。	○		
	単体と化合物	2 節 物質の構成元素	元素を確認する実験などを行い、単体、化合物について理解している。	○	○	○
	熱運動と物質の三態	3 節 物質の三態	粒子の熱運動と温度との関係、粒子の熱運動と物質の三態変化との関係について理解している。	○	○	

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの 評価規準	評価の観点		
				①	②	③
6	原子の構造	2 編 物質の構成 1 章 原子の構造と元素の周期表 1 節 原子の構造	原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解している。	○		
7	電子配置と周期表	2 節 電子配置と周期表	元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解している。	○	○	○
9	イオンとイオン結合	2 章 化学結合 1 節 イオンとイオン結合	イオンの生成を電子配置と関連付けて理解している。	○	○	
	分子と共有結合	2 節 分子と共有結合	共有結合を電子配置と関連付けて理解している。	○	○	○
	金属と金属結合	3 節 金属と金属結合	金属結合及び金属の性質を理解している。	○	○	
10		4 節 化学結合と物質の分類	イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解している。 分子からなる物質の性質を理解している。	○	○	○
11	物質量	3 編 物質の変化 1 章 物質量と化学反応式 1 節 原子量・分子量・式量 2 節 物質量 3 節 溶液の濃度	物質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解している。	○	○	○
12		4 節 化学反応の表し方 5 節 化学反応式の表す量的関係	化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解している。	○	○	○
1	化学反応式					
2	酸と塩基と中和	2 章 酸と塩基 1 節 酸と塩基 2 節 水素イオン濃度と pH 3 節 中和反応と塩の生成 4 節 中和滴定	酸や塩基に関する実験などを行い、酸と塩基の性質及び、中和反応に関与する物質の量的関係を理解している。	○ ○		
	酸化と還元	3 章 酸化還元反応 1 節 酸化と還元 2 節 酸化剤と還元剤 3 節 金属の酸化還元反応 4 節 酸化還元反応の応用	酸化と還元が電子の授受によることを理解している。	○ ○		
	化学が拓く世界	終章 化学が拓く世界	化学基礎で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを理解している。	○		

教科	科目	単位数	履修学年
保健体育	体育	2	2年、3年、4年

使用教科書	副教材等
現代高等保健体育（大修館）	なし

科目の目標
体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 （２）生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 （３）運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

評価の観点とその趣旨		評価方法
① 知識・技能	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	運動の知識・技能の点検、確認、分析（ルールの確認テスト、リーグ戦等の試合、学習プリント・ノート等）
② 思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	記述の点検、確認、分析（学習プリント、グループワーク等）
③ 主体的に学習に取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。	行動の観察、確認（グループ活動及び集団行動の姿勢、安全への意識、授業への取組状況（出席等））

学習計画						
月	単元名	学習内容・活動等	単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 (集団行動、体ほぐしの運動 新体力テストに向けた 補強運動を含む)	定期的・計画的に運動を続けることは、心と体の健康 や体力の保持増進につながることを理解している。	○		
			ねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応 じた強度、時間、回数、頻度を設定している。		○	

			体づくり運動の学習に自主的に取り組むとともに、健康・安全を確保し活動している。			○
	体育理論	運動やスポーツの効果的な学習の仕方	運動やスポーツの技能は、体力と相互に関連しており、技能は、身長や体重などの体格や巧みさなどの体力との関連で発揮されることを理解している。 技能には、二つの型の技能があることを理解し、選択したスポーツの効果的な学習の仕方について、他者に伝えることができる。	○	○	
	陸上競技	短距離走・長距離走・投げる・跳ぶ（体力測定）	自己能力に応じた目標記録や課題を定めている。 練習、試合の企画や運営の仕方について理解し、主体的に行動している。	○ ○	○	○
5	球技	サッカー バレーボール バスケットボール アルティメット	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	○		
6		卓球 バドミントン ソフトテニス (から1種目選択)	自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて自己の考えたことを他者に伝えている。 フェアなプレイを大切にして、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。		○	○
7	体づくり運動	体はぐしの運動 実生活に生かす運動の計画	実生活で運動を継続するには、行いやすいこと、無理のない計画であることなどが大切であることを理解している。 体力の程度や性別等の違いに配慮して、仲間とともに体づくり運動を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見つけている。 仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い教え合おうとしている。	○		○
9	陸上競技	短距離走・長距離走・投げる・跳ぶ（体力測定）	自己能力に応じた目標記録や課題を定めている。（記録の向上） 練習、試合の企画や運営の仕方について理解し、主体的に行動している。	○ ○	○	○
10	体育理論	生涯スポーツ概論	豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	○		○
11	球技	サッカー バレーボール バスケットボール アルティメット	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	○		
12		卓球 バドミントン ソフトテニス (から2種目選択)	自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて自己の考えたことを他者に伝えている。 練習、試合の企画や運営の仕方について理解し、健康・安全に気を配りながら、主体的に行動している。		○	○

教科	科目	単位数	履修学年
保健体育	ライフスポーツ	2	3年3修

使用教科書	副教材等
現代高等保健体育（大修館）	なし

科目の目標
各種スポーツに応じて体力の向上や健康の増進を図るとともに仲間との交流やふれあいにより「こころ」の安定と豊かさを育て、生涯にわたって継続的にスポーツに親しむ資質や能力及び態度を育成する。

評価の観点とその趣旨		評価方法
① 知識・技能	選択した運動の技術（技）の名称や、行い方、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。 運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	運動の知識・技能の点検、確認、分析（ルールの確認テスト、リーグ戦等の試合、学習プリント・ノート等）
② 思考・判断・表現	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	記述の点検、確認、分析（学習プリント、グループワーク等）
③ 主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。	行動の観察、確認（グループ活動及び集団行動の姿勢、安全への意識、授業への取組状況（出席等））

学習計画						
月	単元名	学習項目	単元や題材など内容のまとまりごとの評価 規 準	評価の観点		
				①	②	③
4	ジョギング	正しい走り方 有酸素運動の特性と効果	ジョギングに主体的に取り組んでいる。	○		○
			安全に配慮して取り組んでいる。	○	○	
5 6	ウェイトトレーニング	筋力トレーニングの意義と効果	ウェイトトレーニングを安全に行う方法について理解し、安全に配慮して取り組んでいる。	○		○
7	エアロビクス	曲のリズムに合わせて動く 有酸素運動の特性と効果	エアロビクスの発祥と体への効果を理解している。 自己の生活と照らし合わせて運動の課題を発見し、解決に向けた計画を立てている。	○	○	

9	様々な種目	グラウンドゴルフ	技能の段階に応じて作戦を立てプレイしている。	○	○	○
		スポンジボールテニス	競技会の企画や運営の仕方について理解し主体的に行動している。			
10		ソフトテニス	ルールを守り、勝敗や結果を受け入れることができている。	○		○
11		フットサル	安全に配慮してプレイすることができている。			
12		インディアカ	自分や他者の課題を解決する方法を発見し、周りに伝えている。	○	○	
1		キンボール				
2		(2～3種目抜粋して継続的に行う)				

教科	科目	単位数	履修学年
芸術	音楽Ⅰ	2	2年3修、3年4修

使用教科書	副教材等
高校生の音楽Ⅰ（教育芸術社）	なし

科目の目標 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。 （２）自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽評価をしながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 （３）主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯に渡り音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	期末試験
② 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	実技試験及びレポート提出による評価
③ 主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊に関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	出欠及びレポート 楽器練習への取り組み

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4 5	フォークソングを歌おう	花の街	・声が出ており、積極的に歌うことができる。			○
			・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うことができる。		○	
			・曲種に応じた発生の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができる。	○		
	ドイツ歌曲を歌おう	歌の翼に	・声が出ており、積極的に歌うことができる。			○
			・ドイツ語の発音を意識して歌うことができる。	○		
			・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うことができる。		○	

6			・曲種に応じた発生の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができる。		○	
			・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌うことができる。			○
7	日本歌曲を歌おう	この道	・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うことができる。			○
			・曲種に応じた発生の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができる。		○	
			・山田耕筰の業績を理解している。	○		
9	ミュージカルに親しもう	ウェストサイドストーリーより〈Tonight〉	・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うことができる。		○	○
			・ミュージカルとは何か理解している。	○		
			・トニーとマリアを苦しめるアメリカ社会という背景を理解している。	○		
10	音楽が表現するストーリーを思い浮かべよう	交響詩「魔法使いの弟子」	・物語をイメージしながら聞くことができる。		○	○
			・交響詩とは何か理解している。	○		
			・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞することができる。	○		○
11	管弦楽と声楽の織り為す壮大な響きを聴こう	交響曲第9番	・楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者及び演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞することができる。	○		
			・声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを感じ取って鑑賞することができる。		○	
			・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞することができる。			○
12			・作曲者の人間像を把握することができる。	○		
			・言語の特徴を注意して歌うことができる。	○		
			・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うことができる。		○	
1	言葉と音楽	のばら	・曲種に応じた発生の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができる。	○		
			・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌うことができる。		○	
			・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うことができる。		○	
			・曲種に応じた発生の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができる。			○
2	心の歌	ふるさと	・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取りイメージを持って歌うことができる。	○	○	
			・曲種に応じた発生の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができる。			○

教科	科目	単位数	履修学年
芸術	美術 I	2	2年3修、3年4修

使用教科書	副教材等
高校生の美術1（日本文教出版）	なし

科目の目標
美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の観点と評価規準		評価方法
①知識・技能	- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 - 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	ワークシート 作品制作
②思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	ワークシート アイデアスケッチ 作品制作
③主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり表現及び鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。	授業態度 ワークシート アイデアスケッチ 作品制作

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	オリエンテーション	美術とはなにか 見る 感じとる 考える 表す				○
5	課題1 絵と文字を使って自己紹介	〔絵画、デザイン〕 人物を描く ポスターで伝える イラストレーションの魅力	自己や生活を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、課題の目的や条件を考慮して、発想を深めている。		○	○
			絵画やデザインの効果や表現形式の特性などについて考え、創造的な表現構想を練っている。		○	○
			意図に応じて色鉛筆やマジックなど道具の特性を生かしている。	○		○
			表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表わしている。	○		○

6	課題 2 自分の顔を 4 段階の明暗で表現する	〔絵画、デザイン〕 人物を描く ポスターで伝える イラストレーションの魅力 いろいろな絵の具 アクリル絵の具の可能性 色彩	自己や生活を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、課題の目的や条件を考慮して、発想を深めている。		○	○
			4 段階の明暗の効果やその表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○
			意図に応じてアクリルガッシュ絵具や絵筆などの材料や道具の特性を生かしている。	○		○
			表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表わしている。	○		○
			他生徒の作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○
9	課題 3 立方体に絵を描く	〔絵画〕 想像を形に	自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。		○	○
			表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○
			意図に応じて画材を選び、その画材の特性を生かしている。	○		○
			表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。	○		○
			他生徒の作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○
11	課題 4 四コマ漫画	〔絵画〕 漫画の表現 日本美術	自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。		○	○
			四コマ漫画の表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○
			意図に応じて画材の特性を生かしている。	○		○
			表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。	○		○
			四コマ漫画のよさやおもしろさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○
12			日本の屏風や絵巻物などから美意識や創造性などを感じ取り、日本の美術の歴史や表現の特質、美術文化について考え、見方や感じ方を深めている。		○	○
1	課題 5 清水東に置く彫刻を提案する	〔彫刻〕 彫刻の魅力 生命感や存在感を表す 抽象彫刻で表す 環境を彩る造形	自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。		○	○
			抽象彫刻の表現形式の特性を生かし、形体や空間などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○
			意図に応じて材料や用具を生かしている。	○		○
			表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。	○		○
			造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○
2						

教科	科目	単位数	履修学年
芸術	彫刻	2	2年3修、3年、4年

使用教科書	副教材等
美術 表現と技法(日本文教出版)	なし

科目の目標
彫刻に関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な彫刻に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)表現形式の特性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けるようにする。 (2)表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。 (3)彫刻表現の可能性を追求する態度を養う。

評価の観点と評価規準		評価方法
①知識・技能	- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 - 創造的な彫刻の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	ワークシート 作品制作
②思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、彫刻の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、彫刻や彫刻文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	ワークシート アイデアスケッチ 作品制作
③主体的に学習に取り組む態度	彫刻や彫刻文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	授業態度 ワークシート アイデアスケッチ 作品制作

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6 7	オリエンテーション	彫刻の表現 彫刻の材料 彫刻制作にあたって 現代の彫刻	日本及び諸外国の彫刻作品などから美意識や創造性などを感じ取り、日本の彫刻の歴史や表現の特質、それぞれの国の彫刻文化について考え、見方や感じ方を深めている。			○
	課題1 新聞紙で動物をつくる	にわとりをつくる	自然を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、課題の目的や条件を考慮して、発想を深めている。 新聞紙による表現形式の特性を生かし、形体、量感や質感、動勢やマッサなどについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。 表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。 他生徒の作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○

9	課題 2 粘土でデフォルメ化 した自分の顔をつく る	塑造について 塑造から耐久素材へ 頭像をつくる	自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。		○	○
10			粘土による表現形式の特性を生かし、形体、量感や質感、動勢やマッサなどについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○
11			意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。	○		○
12			表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。	○		○
			他生徒の作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○
12	課題 3 石膏彫刻材を削って 野菜をつくる	手をつくる	自然を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、課題の目的や条件を考慮して、発想を深めている。		○	○
1			石膏による表現形式の特性を生かし、形体、量感や質感、動勢やマッサなどについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○
2			意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。	○		○
			表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。	○		○
			他生徒の作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○

外国語科 年間指導計画

教科	科目	単位数	履修学年
外国語	英語コミュニケーションⅡ②	2	3年

使用教科書	副教材等
Amity English Communication Ⅱ（開隆堂）	なし

科目の目標
外国語(英語)学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、学習指導要領第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

評価の観点とその趣旨	
知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

学習と評価の計画													
時期	単元	単元の目標					総括のための観点別学習状況の評価の記録					評価場面	評価方法
		主な領域			CE FR	主な領域において何ができるようになるのか							
		CAN-DO ID											
		領域	NO	記号									
4	7	L	2		A2	日常的な話題(人工知能)について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができる。	知思態	知思態	知思態			授・定・他	PT/PFT
5	8	R	2		A2	日常的な話題(色の不思議)について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、文章の展開や話し手の意図を把握することができる。	知思態	知思態				授・定・他	PT/PFT
6 7	9	I	3		A2	日常的な話題(ストリートパフォーマー)について、使用される語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝えあうやり取りを続けることができる。	知思態	知思態	知思態			授・定・他	PT/PFT
9 10	10	P	3		A2	日常的な話題(自撮り文化)について、使用される語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができる。	知思態	知思態		知思態		授・定・他	PT/PFT
11 12	11	W	3		A2	社会的な話題(フィンランド)について、使用される語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えることができる。	知思態	知思態		知思態		授・定・他	PT/PFT
1 2	12	L	2		A2	社会的な話題(幸せな人生にするために)について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。	知思態	知思態	知思態			授・定・他	PT/PFT

※評価場面：授（授業内）、定（定期テスト等）、他（課題内容等）
※評価資料：PT（ペーパーテスト等）、PFT（パフォーマンステスト）、PT/PFT（ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト）

備考欄

教科	科目	単位数	学年
外国語	英語コミュニケーションⅠ 演習	2	2年3修, 3年, 4年

使用教科書	副教材等
Amity English Communication Ⅰ（開隆堂）	なし

科目の目標 基礎的・発展的な演習等を通して、「英語コミュニケーションⅠ」の目標・内容に示された資質・能力を育成する。
--

評価の観点とその趣旨	
知識・技能	・音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深める。 ・外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	・コミュニケーションの目的・場面等に応じて情報を整理しつつ考えを形成（思考）する力、考えた内容の伝達の要不要や論理の展開等を、状況に応じて判断する力、そして、思考と判断を経たものを正しい文法に則り要点や意図を明瞭にして表現する力の3つの力を身に付ける事ができる。
主体的に学習に取り組む態度	より自律的な学習につながるよう、「英語コミュニケーションⅠ」で身に付けた資質・能力を、発展的な演習等を通して、より高めることができる。

学習と評価の計画													
時期	単元	単元の目標					総括のための観点別学習状況 の評価の記録					評価 場面	評価 方法
		主な領域			CE FR	主な領域において何ができるようになるのか							
		CAN-DO ID											
		領域	NO	記号									
4 5					A1	日常的な話題（自己紹介、道案内）について、聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えあうやりとりを続けることができる。	知思態	知思態	知思態			授・定・他	PFT
6 7					A1	日常的な話題（デートの約束、英文Eメールの書き方）について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書くことができる。		知思態			知思態	授・定・他	PT
9					A1	社会的な話題（フリーマーケットでの買い物）について、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。		知思態	知思態			授・定・他	PFT
10					A1	社会的な話題（電車等の乗換案内）について、聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えあうやりとりを続けることができる。	知思態	知思態	知思態			授・定・他	PT/PFT
11 12					A1	社会的な話題（食事のマナー）について、自分の考えを聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。	知思態	知思態				授・定・他	PT/PFT
1					A1	社会的な話題（日本の文化）について、聞いたり読んだりしたことを基に、意見を論理性に注意して話して伝えあうことができる。	知思態	知思態		知思態		授・定・他	PFT
2					A1	社会的な話題（外国の文化）について、聞いたり読んだりしたことを基に、意見を論理性に注意して話して伝えあうことができる。	知思態	知思態		知思態		授・定・他	PFT

※評価場面：授（授業内）、定（定期テスト等）、他（課題内容等）

※評価資料：PT（ペーパーテスト等）、PFT（パフォーマンステスト）、PT/PFT（ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト）

備考欄

教科	科目	単位数	履修学年
家庭	家庭総合②	2	3年

使用教科書	副教材等
家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍）	なし

科目の目標
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などのことについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。	定期テスト、ワークシート、実験・実習レポート、作品 等
② 思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	定期テスト、ワークシート、実験・実習レポート
③ 主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	ワークシート、レポート、授業への取組状況

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	住生活の科学と文化	・住生活の変遷と住居の機能 ・安全で快適な住生活の計画 ・住生活の文化と知恵 ・これからの住生活	住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化など、住まいと人との関わりについて理解を深めている。また、ライフステージの特徴や課題に着目し、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解し、住生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。さらに、家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画について理解し、快適で安全な住空間を計画するために必要な情報を収集・整理ができている。	○		

5			主体的に住生活を営むことができるようライフステージと住環境に応じた住居の計画、防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくり、日本の住文化の継承・創造について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○	
			様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○
6	子どもとの関わりと保育・福祉	・命を育む ・子どもの育つ力を知る ・子どもと関わる ・これからの保育環境	乳幼児期の心身の発達と生活、子どもの遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深めているとともに、子どもの発達に応じて適切に関わるための技能を身に付けている。また、子どもを取り巻く社会環境の変化や課題及び子どもの福祉について理解している。	○		
			子どもを産み育てることの意義や、保育の重要性について考え、親や家族及び地域や社会の果たす役割について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○	
7			子どもを産み育てることの意義や、保育の重要性について考え、親や家族及び地域や社会の果たす役割について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○	
			様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子どもとの関わりと保育・福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○
9			様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子どもとの関わりと保育・福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○
			様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子どもとの関わりと保育・福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○
10	高齢者の関わりと福祉	・超高齢・大衆長寿社会の到来 ・高齢期の心身の特徴 ・高齢者の自立を支える ・これからの超高齢社会	高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深めているとともに、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身に付けている。また、高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解している。	○		
			高齢者の心身の状況に応じた支援の方法や関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○	
	共生社会と福祉	・私たちの生活と福祉 ・社会保障の考え方 ・共に生きる	様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢者との関わりと福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○
			生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。また、家庭と地域の関わりについて理解しているとともに、高齢者や障害のある人など様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解を深めている。	○		

11			家庭や地域及び社会の一員として、共に支え合って生活することについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○	
			様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○
12	持続可能なライフスタイルと環境	・持続可能な社会を目指して ・一人一人の力で社会を動かす	生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解しているとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解を深めている。	○		
			持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費及び生活文化について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○	
			様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○
1	ホームプロジェクトの実践	・ホームプロジェクト	自己の家庭生活や地域の生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○	
2			様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、自己の家庭生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し想像し実践しようとしている。			○

教科	科目	単位数	履修学年
家庭	フードデザイン	2	3年3修、4年

使用教科書	副教材等
フードデザイン（実教出版）	なし

科目の目標
家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	定期テスト、ワークシート、実験・実習レポート 等
② 思考・判断・表現	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	定期テスト、ワークシート、実験・実習レポート 等
③ 主体的に学習に取り組む態度	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	ワークシート・レポートへの取組状況、授業への取組状況 等

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	健康と食生活	- 食事の意義と役割 - 食のとりまく現状	食事の意義と役割について理解しているとともに、食習慣、栄養状態、食料事情、食の安全と環境との関わりなどの視点で、我が国の食生活を現状と課題を把握し、関連する情報を適切に収集・整理できている。	○		
			健康な食生活の在り方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○	
			健康と食生活について自ら学び、食生活をデザインするために主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
5	栄養	・からだのしくみと食べ物	栄養素の機能や代謝について理解している。	○		

6		・ 五大栄養素 ・ 消化と吸収 ・ 食事摂取基準と食事計画 ・ ライフステージと栄養計画	ライフステージごとの栄養について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。		○	
			栄養について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
7	食品	・ 食品と特徴と性質 ・ 食品の生産と流通 ・ 食品の選択と表示 ・ 食品の衛生と安全	食品の特徴や調理上の特性について理解している。	○		
9			食品の生産、流通の現状について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。		○	
10			食品について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
11	料理	・ 調理とおいしさ ・ 調理操作 ・ 調味操作	調理操作について理解している。	○		
			調理操作と食物のおいしさについて課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。		○	
			調理操作について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○
12	料理形式と献立	・ 料理様式と献立 ・ 献立作成	料理様式の特徴や献立構成を理解している。	○		
1			料理様式について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。		○	
料理様式について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					○	
2	テーブルコーディネート	・ テーブルコーディネート	テーブルコーディネートについて理解している。	○		
			テーブルコーディネートについて課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。		○	
			テーブルコーディネートについて自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			○

教科	科目	単位数	履修学年
情報	情報Ⅰ演習	2	3年

使用教科書	副教材等
最新情報Ⅰ（実教出版）	基礎から始める情報リテラシー（実教出版）

科目の目標 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成する。 （１）効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 （２）様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 （３）情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。
--

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	テストおよび、実習課題等
② 思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	テストおよび、実習課題等
③ 主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	授業への取り組み、テスト、実習課題等

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4 5	第1章 情報社会と私たち	1節 情報社会 2節 情報社会の法規と権利 3節 情報技術が築く新しい社会	知的財産権および、他人や自分の著作物を適切に利用するための、よりよい具体的な利用方法を模索し、公開するための方法を理解し、様々な情報システムの使用方法を実践できる。	○	○	
6 7	第2章 メディアと情報デザイン	1節 メディアとコミュニケーション 2節 情報デザイン 3節 情報デザインの実践	様々なメディアの使用方法を実践し、これをコミュニケーションに生かす方法を理解し、効果的な情報デザインの作成を実践できる。	○	○	○
9 10	第3章 システムとデジタル化	1節 情報システムの構成 2節 情報のデジタル化	アナログ表現・デジタル表現についての仕組みを実践の中で学び、表現する技能を身に付け、理解している。	○	○	
11 12 1	第4章 ネットワークとセキュリティ	1節 情報通信ネットワーク 2節 情報セキュリティ	Web ページの仕組みを理解し、それを効率的作成する能力や、情報セキュリティにおける様々な技術を理解し、実践して使用することができる。	○	○	
	第5章 問題	1節 問題解決	様々な問題を解決するための、エクセルを使用した	○	○	○

2	解決と その方 法	2 節 データの活用	シミュレーションや、プログラミングを使用する実 践能力を学び、使用することができる。			
		3 節 モデル化				
		4 節 シミュレーション				

教科	科目	単位数	履修学年
職業	職業一般	2	3年3修、4年

使用教科書	副教材等
ガイダンス＋SPI・一般常識(実務教育出版)	なし

科目の目標
働くことの意義、職業人として求められる一般的・基本的事項を実践的に学ぶ中で、現代社会における職業について理解を深める。自己分析など進路を考える活動を通して、社会に主体的に参画していく職業人としての資質と能力を養う。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	・現代社会における職業についての基本的問題と職業人としての在り方生き方にかかわる事柄や学び方を理解し、その知識を身に付けている。 ・現代社会における職業についての諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付けている。	・テスト ・プリント・ノート ・発表の内容 ・図表の読み取り
② 思考・判断・表現	・働くことにかかわる事柄から課題を見だし、働くことを通して社会とかかわる人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえながら、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	・テスト ・プリント・ノート ・発表の内容 ・図表の読み取り
③ 主体的に学習に取り組む態度	・働くことの意義や職業人として求められる事柄について関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会に主体的に参画していく職業人としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。	・授業への取り組み ・プリント・ノート ・授業内容に取り組む姿勢 ・発表の内容

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	オリエンテーション 基礎学力向上 自己分析	・一般常識・漢字・計算・作文 ・将来の目標、性格の把握	・漢字や計算など、基本的な知識を身に付けている。 ・自分の過去の経験や言動を振り返り、自らの性格を知るとともに、将来の目標を設定している。	○	○	
5	基礎学力向上 自己分析 面接	・一般常識・漢字・計算・作文 ・自分の関心 ・自分の価値観 ・自分のこれまでの活動 ・面接マナー（所作・言葉遣い）	・漢字や計算など、基本的な知識を身に付けている。 ・自分の過去の経験や言動を振り返り、自らの性格を知るとともに、将来の目標を設定している。 ・面接の際に身に付けておく必要がある所作や言葉遣いを使用している。	○	○	○
6	履歴書の作成 基礎学力の向上 面接	・志望理由の明確化 ・一般常識・漢字・計算・作文 ・面接マナー（所作・言葉遣い） ※国語表現と連携を図る。	・自己分析や将来への展望を基に志望理由を書けるようになる。 ・漢字や計算など、基本的な知識を身に付けている。 ・面接の際に身に付けておく必要がある所作や言葉遣いを使用している。	○	○	○
7	就職活動の実際	・求人票の見方 ・職場見学について ・御礼状について	・求人票の見方を理解している。 ・御礼状の書き方について理解している。	○		○
9	履歴書の作成 基礎学力の向上 面接	・志望理由の明確化 ・一般常識・漢字・計算・作文 ・面接マナー（所作・言葉遣い）	・自己分析や将来への展望を基に志望理由を書けるようになる。 ・漢字や計算など、基本的な知識を身に付けている。 ・面接の際に身に付けておく必要がある所作や言葉遣いを使用している。	○	○	○
10	基礎学力の向上 面接	・一般常識・漢字・計算・作文 ・面接マナー（所作・言葉遣い）	・漢字や計算など、基本的な知識を身に付けている。 ・面接の際に身に付けておく必要がある所作や言葉遣いを使用している。	○	○	
11	基礎学力の向上 働く自分を守る	・一般常識・漢字・計算・作文 ・労働法規について	・漢字や計算など、基本的な知識を身に付けている。 ・労働法規の意義などを理解している。	○	○	
12	基礎学力の向上 働く自分を守る	・一般常識・漢字・計算・作文 ・労働法規について	・漢字や計算など、基本的な知識を身に付けている。 ・労働法規の意義などを理解している。	○	○	
1	基礎学力の向上 社会人としての常識	・一般常識・漢字・計算・作文 ・契約	・漢字や計算など、基本的な知識を身に付けている。 ・「契約とは何か」、「契約の際に発生するトラブル」などを理解している。	○	○	○
2	基礎学力の向上 社会人としての常識	・一般常識・漢字・計算・作文 ・住宅	・漢字や計算など、基本的な知識を身に付けている。 ・住宅を建てるための資産形成や建てる上での注意点などを理解している。	○	○	○

